

# プラテュス *πλατύς*



◆追悼文				1
	保健科学研究院長職務代行	矢野	理香	
◆巻頭言「今の時代におけるリーダーに求められる教養とは」				2
	学院長補佐	境	信哉	
◆北大を離れるにあたって				3
退職のご挨拶	健康科学分野	講師	陳 震	
退職のご挨拶	創成看護学分野	助教	大西 竜太	
退職のご挨拶	創成看護学分野	助教	鏡山 浩美	
退職のご挨拶	健康科学分野	助教	呉 玥	
◆新任教員紹介				5
就任のご挨拶	創成看護学分野	准教授	松澤 明美	
就任のご挨拶	医用生体理工学分野	准教授	福永 久典	
就任のご挨拶	病態解析学分野	准教授	田村 彰吾	
就任のご挨拶	病態解析学分野	助教	村山 迪史	
就任のご挨拶	リハビリテーション科学分野	助教	越野 裕太	
◆協定締結・海外便り・国際交流の報告				7
	豪州メルボルン大学と北海道大学の国際シンポジウム報告			
	Hokkaido University & The University of Melbourne Case Study Afternoon: Snapshots from Australia and Japan Integrated Allied Healthcare for Older Adults			
	リハビリテーション科学分野	講師	澤村 大輔	
◆特集1				8
	令和4年度大学院保健科学院大学院生合同シンポジウムを開催			
	学院教務委員会	委員長	石津 明洋	
◆特集2				9
	大学院保健科学研究院ホームカミングデー2022を開催			
	公開講座委員会	委員長	山内 太郎	
◆報告事項				10-14

## 追悼文



大学院保健科学研究院長／大学院保健科学院長／保健学科長であった伊達広行先生は、令和4年8月7日にご逝去されました。享年63歳でした。研究院長在任中に、先生を失ったことは悔しく、悲しく、誠に残念でなりません。

伊達先生は、昭和58年3月北海道大学工学部電気工学科をご卒業され、昭和60年3月同大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻を修了し、北海道大学から工学修士及び博士(工学)を授与されました。その後、同年7月同大学医療技術短期大学部助手に任用され、平成11年4月同学部助教授に昇任及び平成15年4月同学部教授に昇任された上、同年10月同大学医学部教授に転任、平成20年4月同大学大学院保健科学研究院教授に配置換えされました。この間、平成7年5月から翌年3月まで米国カリフォルニア大学バークレー校化学工学科在外研究員として、平成14年2月から3月まで米国スタンフォード大学線形加速器センター在外研究員として研究に従事され、確かな研究力をもって教育・研究・医療の充実に向け大きく貢献されました。

研究分野は、量子線シミュレーション、放射線被ばく影響、放射線治療、気体放電工学と多岐に亘っておりました。中でも、低速電子線の挙動を模擬するシミュレーションコードの開発にご尽力され、放射線により生じる生体影響の解明へ向けた微視的エネルギー付与の研究や、放射線治療による副反応低減を目指した治療計画の最適化の研究を推進され、多数の研究論文をご発表されております。

教育においては、常に学生にとってどうあるべきかを考え、未来を担う学生たちを心の底から支援したいという揺るぎない信念をもってご尽力されておりました。学生とのやり取りを話すときの先生の眼差しはいつも柔らかく、大変楽しそうで、話を聴いている私の心まで温くなるようでした。

社会で活躍されている優秀な卒業生や修了生を多数輩出されていることは、先生の教育に向けたご尽力の結果だと言えます。

部局内においては、平成24年4月から平成28年3月まで大学院保健科学研究院長／大学院保健科学院長にご就任され、令和2年4月から4期目にご尽力されておりました。在任中は、海外との部局間協定にも精力的に取り組まれ、インドネシア(ディボネゴロ大学, Dr.カリアディ病院)、台湾(台北医科大学, 高雄医科大学)、タイ(チュラロンコン大学)および中国(香港大学)との部局間協定を締結し、国際共同研究及び学生交流の基盤を構築されました。また、研究活動を活発化させるための環境整備、若手人材の登用と育成に注力し、これらの取組は、大学院保健科学研究院の研究論文の飛躍的な増加と修士課程及び博士後期課程学生の志願者増加に繋がったと考えられます。

最後に。伊達先生のご葬儀後、先ほどまで雨が降っていた空が真っ赤な夕焼けに染まり、反対側の空には大きな「虹」がかかっておりました。その場にいた誰もが、私たちへの伊達先生のごメッセージだったのではないかと感じる光景で、悲しみの中にもあたたかな感動をもたらす瞬間でした。「保健科学研究院は間違いなく、発展していく。だからもう少し我々がここを支えていけるように一緒に頑張ろう。」といつも励ましてくださっていた伊達先生への感謝の気持ちとともに、そのご遺志を継承できるように、これからも保健科学研究院の構成員一同、その発展に向けて、尽力していきたいと思っております。先生の長年に亘るご功績に敬意を表し、多大なるご貢献に感謝申し上げます。謹んでご冥福をお祈り致します。

保健科学研究院長職務代行  
矢野 理香

## 今の時代におけるリーダーに求められる教養とは

学院長補佐 境 信哉



今年4月1日に学院長補佐を拝命し、企画戦略室構成員、学科教務委員長という責任重大な役割を担うことになりました。平成15年に北海道大学医療技術短期大学部・助教授として着任し、医学部保健学科設置、大学院保健科学研究

院・保健科学院修士課程設置、そして博士後期課程の設置という、我々の部局の激動の時代を経験し、今年で勤続19年目になりました。この間、様々な委員や係を経験し、本学の組織運営について少し自信を持ち始めてきた今年、その当時研究院長でした伊達広行先生に企画戦略室構成員として抜擢していただきました。企画戦略室構成員となり、毎週開催される会議で意見を求められたり、発言する度に、これまでの経験や知識がいかに浅かったのかを実感しました。的外れな発言をすることも多かったと思いますが、それでも伊達先生をはじめ他の企画戦略室構成員の先生方や事務課長はいつも親切丁寧に教えてくださいました。とりわけ伊達先生にはご多忙の中、私のために貴重なお時間を割いて何度も相談に乗っていただいたこと、感謝の気持ちを今でも忘れておりません。

企画戦略室の仕事に少し慣れてきたと思った頃に伊達先生のご急逝の報に接しました。最初は絶望感に襲われ、今でも信じられない気持ちです。短い期間でしたが、伊達先生のお仕事を間近で拝見でき、保健科学研究院・学院・学科の全体的な発展のため、各分野や教員間の価値観の違いなどからくる様々な問題を、各々を尊重し見事なまでに解決していく手腕には驚かされました。一方から見ると、不平等な対応だと

思われることもあるかと思いますが(過去には自分もそう思ったこともありましたが)、状況を理解し、全体的に俯瞰してみるとかなり譲歩してくれていることがわかりました。公平かつ調和を大切に、話し合いを重視した対応は、伊達先生の信念だったのだと思います。

私も含め現在の企画戦略室構成員は、伊達先生のご遺志を引き継ぎ、責務を全うする気持ちでいることは間違いありません。伊達先生のご遺志とは何なのか、私なりに考えたことがありました。各々の業務については、年度初めに振り分けられていますので、各構成員は承知のことと思います。しかし、その業務をこなせば、ご遺志を引き継いだということにはなりません。伊達先生がしたくてもできなかったことを実現することだと私は思います。

伊達先生と接する中で、明言は避けているように感じましたが、何度か国際情勢に関するご発言をお聞きしたことがありました。私なりの解釈になりますが、巨大利権と結び付いたグローバリスト達に支配されていく日本、その情勢に翻弄される大学等を危惧されていたのではないかと思います。国力と強く関係する日本の高等教育や研究レベルを高めていくことの重要性を常に意識して、保健科学研究院の発展、そして、部局からのボトムアップという形で北大の発展にご尽力されていたことは間違いありません。

グローバリズムを全否定する訳ではありませんが、巨大なグローバリスト達は、着々と世界中に利権構造を作っていきます。あまり具体的には書けませんが、日本でもおかしなことが起こっていることは皆様もお気づきのことと思います。今後は、大学に限らずますます国際情勢を見抜く力を持った指導者が必要となり、私もそのような人物になりたいと思っています。

末筆で大変恐縮ではございますが、伊達先生のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

北大を離れるにあたって

## 退職のご挨拶

健康科学分野 講師 陳 震



この度、令和4年8月12日をもちまして、北海道大学を退職することになりました。この場をお借りして、一言ご挨拶を申し上げます。私は平成28年から北海道大学保健科学研究院で、博士研究員、助教そして講師として仕事をさせていただきました。健康科学や病態解析の領域の先生方と一緒に研究することができたことを感謝いたします。所属した千葉先生、恵先生の高度脂質分析

ラボには多様な分野出身のスタッフがいたことから、多くの人に出会い、学び、助けられました。このような日本の一流大学での経験は私にとって大きな財産になり、北海道大学のすばらしさに感謝いたします。最後になりましたが、ご挨拶の機会を与えていただきました広報室の皆様、また大変お世話になりました健康科学分野・病態解析学分野の皆様をはじめ、保健科学研究院の皆様には厚く御礼申し上げます。保健科学研究院の今後のご発展を祈念いたしまして、私のご挨拶といたします。誠にありがとうございました。

北大を離れるにあたって

## 退職のご挨拶

創成看護学分野 助教 大西 竜太



私は本学の医学部保健学科看護学専攻4期生として入学し、その後の保健科学院の修士課程および教員として約10年間を本学で過ごしてまいりました。多くの先生方とのお縁に支えていただき、教育・研究を通じて保健科学の発展に微力ながらも貢献できる機会をいただけたことに感謝しております。お力添えをいただきました保

健科学研究院の先生方、大学事務系職員の皆様にご場をお借りして深くお礼申し上げます。私の専門分野である公衆衛生看護学は、研究としての未開の地が多く、今後の発展のためには研究力の向上が非常に重要だと考えております。本学で培った経験を糧に、公衆衛生看護学の学術的、実践的な発展に貢献できるよう邁進してまいります。最後になりますが、医学部保健学科・保健科学院・保健科学研究院の今後益々のご発展を祈念いたします。



北大を離れるにあたって

## 退職のご挨拶

創成看護学分野 助教 鏡山 浩美



この度、令和4年9月30日をもって退職することとなりました。この場をお借りして、一言ご挨拶申し上げます。私は平成29年3月に北海道大学大学院保健科学院の修士課程を修了し、翌年12月に保健科学研究院に助教として着任致しました。これまで4年間という短い期間でしたが、基盤看護学分野、創成看護学分野の二つの領域で、教育・研究に携わらせて頂いたことは、私にとっ

て大変貴重な経験となりました。基盤看護学分野・創成看護学分野の皆様をはじめ、保健科学研究院の皆様にはいつも温かいご指導、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今後は北大で培った経験をもとに、より一層教育・研究に邁進していく所存であります。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようどうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、保健科学研究院の益々のご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。これまで、本当にありがとうございました。

北大を離れるにあたって

## 退職のご挨拶

健康科学分野 助教 呉 珮



この度、北海道大学を退職することになりました。私は、本学の大学院保健科学院修士として入学して以降、大学院を修了し、幸運にも教員として採用していただき現在に至るまでの4年間を、保健科学研究院で過ごしてまいりました。着任後は、教育・研究・社会貢献の仕事

を通し、成長の機会をいただきました。研究活動やその他の活動の中で、多くの先生方と協働できたことをはじめ、北海道大学で教員として多くの経験ができたことは、私にとって大きな財産になりました。

これまで、健康科学分野・病態解析学分野をはじめ、多くの先生方にお世話になりました。皆様に心より御礼を申し上げます。北海道大学医学部保健学科、大学院保健科学院、保健科学研究院のますますのご発展を祈念申し上げます。ありがとうございました。



## 新任教員紹介

### 就任のご挨拶

創成看護学分野 准教授 松澤 明美



2022年6月1日付で、北海道大学大学院保健科学研究院・創成看護学分野に准教授として着任しました。

私は北海道の出身で、札幌の地で看護職としての第一歩を踏み出しました。天使病院などで看護職としての臨床

経験を積んだのち、筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻において博士号を取得、茨城キリスト教大学看護学部において教員を務めてまいりました。

研究では、障がいのある子どもを育てる家族の子育

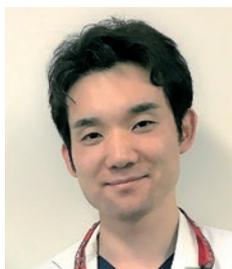
て・ケアに伴う健康やWell-being、社会生活への影響に問題意識をもち、なかでも重症心身障がいのある子どもや医療的ケアを要する子どもを育てる母親の健康やサービスの質の評価に関する実証研究を行ってきました。

約20年ぶりに懐かしい札幌の地に戻り、この歴史ある北海道大学において、これらの研究と小児看護学の教育に携わることができることを、とても嬉しく光栄に思っています。新たな環境のなかで、小児看護学の発展に寄与する研究、教育を通じた人材育成など、微力ながら日々努めていきたいと考えております。ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 新任教員紹介

### 就任のご挨拶

医用生理工学分野 准教授 福永 久典



令和4年4月1日付で医用生理工学分野の准教授に着任いたしました。私は横浜市立大学医学部医学科を卒業後、卒業臨床研修を経て東北大学加齢医学研究所機能画像医学研究分野(旧抗酸菌病学研究所放射線医学部

門)に入局し、放射線科医としてトレーニングを受けました。その後、英国クイーンズ大学ベルファスト大学院博士課程に留学し、放射線生物学の研究を通じて学位(PhD)を取得しました。帰国後も、放射線被ばく影響に関する研究に取り組みながら、医師として地

域医療に従事してきました。

放射線はまさに「両刃の剣」といえます。我々の目には見えませんが、医療や産業において人類に多大な恩恵をもたらす有益なツールである一方、被ばくに伴う発がんなどの危険性も併せ持っています。私は、医学・生物学的な観点からこの両面性についてより深く追究することで、放射線被ばく影響に関する統合的な理解をより深めるだけでなく、より安全性の高い革新的な放射線制御技術・イノベーションの創造も目指しています。

今後も、微力ながら保健科学の発展に貢献できますよう努力してまいりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 新任教員紹介

### 就任のご挨拶

病態解析学分野 准教授 田村 彰吾



この度、令和4年4月1日付で北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野に准教授として着任いたしました。

私は本学保健学科の前進である医療技術短期大学部

衛生技術学科の最後の卒業生(22期生)です。医療技術短期大学部卒業後は、保健学科検査技術科学専攻1期への3年次編入、修士課程、博士後期課程と進学し、北海道大学が授与する学位4種類(短期大学士、学士、修士、博士)を取得した極めて稀な人材となりました(病態解析学分野の櫻井准教授も同様)。10年間に及ぶ北海道大学での研鑽後は、山梨大学

医学部臨床検査医学講座と名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻・医学部保健学科検査技術科学専攻にて、さらに研究者・教育者としての研鑽を積み、そこで出会った仲間とも呼べるたくさんの方々に支えられ、10年ぶりに母校である北海道大学に戻って参りました。

これまでに私が経験し感じた全てのことを本学での教育・研究に還元し、学生とともに未知の世界を切り開く姿勢を決して忘れず、微力ながらも北海道大学および保健科学研究院の発展に貢献することを目指したいと思います。ご指導ならびにご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 新任教員紹介

### 就任のご挨拶

病態解析学分野 助教 村山 迪史



令和4年4月1日付で病態解析学分野の助教として着任いたしました。

私は本学に保健学科検査技術科学専攻8期生として入学しました。学部の卒業研究において超音波医学研究の面白さ、奥深さ、また将来性に魅力を感じて本学保健科学院に進学し、故・三神大世先生、加賀早苗先生、岡田一範先生のご指導のもと、研究と実務の両方に取り組みました。その後、北大病院の超音波センターにエコー技師として勤務しながら本学の博士課程に進学し、実学研究に邁進して

まいりました。

超音波検査は非侵襲的に豊富な診断情報をえることのできる素晴らしい検査法です。また、検査の中で「何かおかしい」と思ったその瞬間、それがclinical questionとなり、新しい発見につながる検査だと思っています。本学の後進たちに、このような検査と研究の相乗効果や魅力をお伝えできればと思います。また、分野の垣根を超えた研究にも挑戦したいと考えています。これにより、日常の疑問に根差した研究のさらなる展開と新たな知見の発見につながると考えています。保健科学研究院の発展に貢献できるよう努力して参りますので、ご指導ご鞭撻頂けますと幸いです。

## 新任教員紹介

### 就任のご挨拶

リハビリテーション科学分野 助教 越野 裕太



令和4年10月1日付で、北海道大学大学院保健科学研究院リハビリテーション科学分野の助教に着任いたしました。私は本学理学療法学専攻を2期生として卒業後、本学院修士・博士課程に進学しました。また、札幌市内

の病院に理学療法士としておよそ13年間勤務しながら、本学客員研究員として研究にも従事させていただきました。この度、本学にて教育および研究に携わる機会をいただき、大変光栄に思っております。

私はこれまで「足・膝関節の靭帯損傷に対する予防戦略およびリハビリテーションプログラムの発展」を研究テーマとして、バイオメカニクス的手法による基礎的検討、リハビリテーション介入効果の検証、メタアナリシスによる研究を進めてきました。今後もこれまでの研究を発展させつつ、本学運動部に所属するアスリートの方々を対象とした様々なスポーツ障害に関する研究を進め、世界に発信したいと考えております。

本研究院の発展に貢献できるよう教育・研究に一層、精励いたす所存でございます。ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

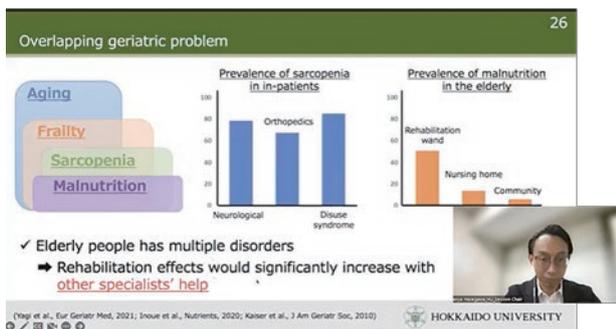
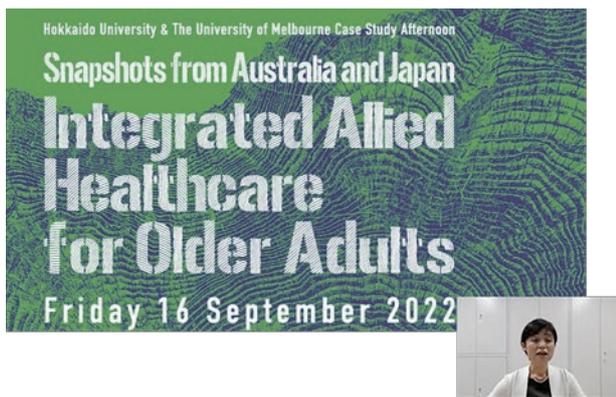
## 豪州メルボルン大学と北海道大学の国際シンポジウム報告 [Hokkaido University & The University of Melbourne Case Study Afternoon: Snapshots from Australia and Japan Integrated Allied Healthcare for Older Adults]

リハビリテーション科学分野 講師 澤村 大輔

9月16日(金)豪州メルボルン大学と国際シンポジウム(Hokkaido University & The University of Melbourne Case Study Afternoon: Snapshots from Australia and Japan Integrated Allied Healthcare for Older Adults)をオンラインで開催しました。本シンポジウムは、本年3月に開催された両大学共同主催の「ヘルシーエイジング・バーチャルカンファレンス」で講演を行った両大学の研究者が中心となり、両大学共同出資ファンドの助成を受けて企画されたものです。北海道、ヴィクトリア州を拠点とする医療・保健関係者の視点から、エビデンスに基づく高齢者ケアのベストプラクティスや事例シナリオを共有し、日豪の高齢者支援の枠組みの共通点・相違点を理解すること、また、国際社会に貢献できる重要なニーズや、より良い高齢者ケアの実践に繋がる研究シーズを見つけ出すことを目的に開催されました。一般参加を受け入れ同時通訳付で開催された本シンポジウムは、両国から100名を超える登録者を集め、両大学だけでなく、札幌医科大学、北海道医療大学、藤女子大学、北海道文教大学、旭川医科大学病院、東京都立大学、ディーキン大学、ロイヤルメルボルン病院、その他、国内外の病院、介護老人保健施設、訪問介護事業所、保健所、保健省など、様々な所属組織より多くのご参加をいただきました。

本イベントでは共同主催者であるメルボルン大学のDr. Marianne Colemanと私のほうでモデレータを務め、矢野理香教授/副研究院長、Dr. Alicia Spittle (Prof./ Associate Dean)のご挨拶で幕を開けました。北海道、ヴィクトリア州における「病院及び高齢者医療施設、地域社会における高齢者医療でのアライドヘルスの役割」について、メルボルン大学のDr. Sandra Iulianoが豪州の現状を述べ、Dr. Claire Maddisonが高齢者疾患専門医として、ノッシュ栄養士会社のDr. Louise Murrayが栄養士として、ヴィクトリア州の医療提供機関であるウェスタンヘルス医学部門のDr. Myrta Salesが運動生理学者として、それぞれの観点から豪州の高齢者医療・支援の現状と今後の課題について情報を共有しました。また、本学の長谷川直哉准教授が北海道の現状と理学療法士としての見解を、訪問看護ステーションポット東の福島篤氏が地域高齢者向けヘルスケアワーカーとしての現場について紹介しました。また、その後のパネルディスカッションでは日豪双方の研究者、医療従事者、大学院生より積極的な質問が飛び交いました。国際共同研究の開発に繋がる日豪共通の重要なニーズの抽出、両国両地方の課題である遠隔地で働く地域医療従事者への研修機会にもなり、来年2月に開催予定の豪州メルボルン大学との国際シンポジウム(ハイブリッドイベント)へ繋がるいいバトンパスとなりました。

今後は、本イベントが国際共同研究の推進はもとより、高齢者支援・健康増進に携わる保健医療分野の専門家、またこの分野で将来の活躍が期待される学部生、大学院生の積極的な参画の機会となり、国際的視野を持つグローバル人材の育成にも繋がればと考えております。次回の国際シンポジウムでは、更なるメルボルン大学との連携強化を図り、高齢者医療・支援に資する有意義な機会となるよう準備を進めてまいります。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。



矢野副研究院長のご挨拶と長谷川准教授の講演の様子



参加者の集合写真

## 令和4年度大学院保健科学院大学院生合同シンポジウムを開催

学院教務委員会 委員長 石津 明洋

令和4年5月27日(金)に大学院保健科学院大学院生合同シンポジウムを開催しました。当シンポジウムは修士課程大学院生の科目群間交流の一環として平成24年度から実施されているものです。令和2年度と3年度はコロナ禍のため開催されませんでしたので、3年ぶりの開催となりました。

今年度のテーマは「〇〇〇〇に立ち向かう保健科学」としました。初めに、グループごとに立ち向かう想定リスクを決め、次に、そのリスクに対して、保健科学はどのようにそれを回避・解消できるのか、アイデアを出し合いました。6つのグループがそれぞれ「島唯一

一の診療所の医療従事者が高齢となったリスク」「バイオテロに立ち向かう保健科学」「北海道での原発事故に立ち向かう保健科学」「札幌での台風」「コロナ禍における夏の震災に立ち向かう保健科学」「2050年問題に立ち向かう保健科学」を取り上げ、保健科学に携わる人間に何ができるか、科目群横断的な視点で議論を交わしました。

出席教員による審査の結果、最優秀賞・優秀賞が以下のとおり決定され、令和4年6月23日(木)に伊達広行保健科学院長より表彰が行われました。

### 【最優秀賞】

Group F(小西優歌, 竹下 花, 窪田将也, 舘ヶ澤 翔, 劉 雨杉, 生田寿波)

### 「2050年問題に立ち向かう保健科学」



### 【優秀賞】

Group C(瀬尾采子, 岩井志緒里, 荒井粹心, 永井優衣, 野村真希, フィオレジャ アンヒオレナ アポロ ソリア, 金 絢加, 森谷竜馬)

### 「北海道での原発事故に立ち向かう保健科学」



# 大学院保健科学研究院ホームカミングデー2022を開催

公開講座委員会 委員長 山内 太郎

北海道大学ホームカミングデーをご存じでしょうか。学部卒業生や大学院修了生が大学に集い、世代を超えた親睦を深めることを目的として年に一度開催されるイベントです。今年は9月25日(土)に行われました。午前中には学術交流会館で全学の行事が行われ、午後から保健科学研究院においてプログラムを実施しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、昨年はオンラインにて開催しましたが、今年は対面とオンラインのハイブリッドで実施しました。総勢35名と例年に比べて少人数の参加者でしたが、わざわざ保健科学研究院まで足を運んでくださった皆様、オンラインでご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



矢野研究院長職務代行によるご挨拶

矢野理香研究院長業務代行による開催のご挨拶に始まり、毎年恒例となっている分野紹介で各分野(基盤看護学分野、創成看護学分野、医用生体理工学分野、病態解析学分野、リハビリテーション科学分野、健康科学分野)について最近の教育および研究活動と教員紹介が行われました。

続いて行われた講演会では卒業生2名を講師としてお招きし、これまでの歩みや現在の活動状況などをお話いただきました。最初に、井野拓実氏(北海道科学大学 保健医療学部 理学療法学科 助教)が「メガス



井野拓実氏による講演の様子



高山望氏による講演の様子

スポーツイベントにおける理学療法士の活動～Tokyo 2020の経験から～」と題し、コロナ禍で開催された東京オリンピック、北京オリンピックにチームJAPANとして参加したご経験について、参加までの道のり、選手村の様子、活動内容や苦労話、そしてオリパラガシーについてご講演いただきました。本学の基本理念が世界の舞台でチームとして必要であったと実感されたというのが印象的でした。

続いて、高山望氏(訪問看護ステーション いっぽにほさんぽ 所長)から「いのちと暮らしを支える在宅医療～起業の道のりと訪問看護の魅力!～」と題してご講演いただきました。起業を選択した理由や道のり、利用者との長いスパンで深く関わることができる訪問看護の醍醐味や魅力、そして人材育成、労務管理・法務管理、財務経理など経営者としての課題についてお話いただきました。

その後、本年1月に発生したA棟3階の火災へのお見舞いに対する感謝状が矢野研究院長職務代行から同窓会に贈られ、最後に北海道大学医学部保健学科・医療技術短期大学部同窓会総会が行われました。

今年は初の対面とオンラインによるハイブリッド開催でしたが、盛況の内に終わることができました。ご要望などございましたら、ぜひご連絡いただければと思います。来年も、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



記念スクリーンショット

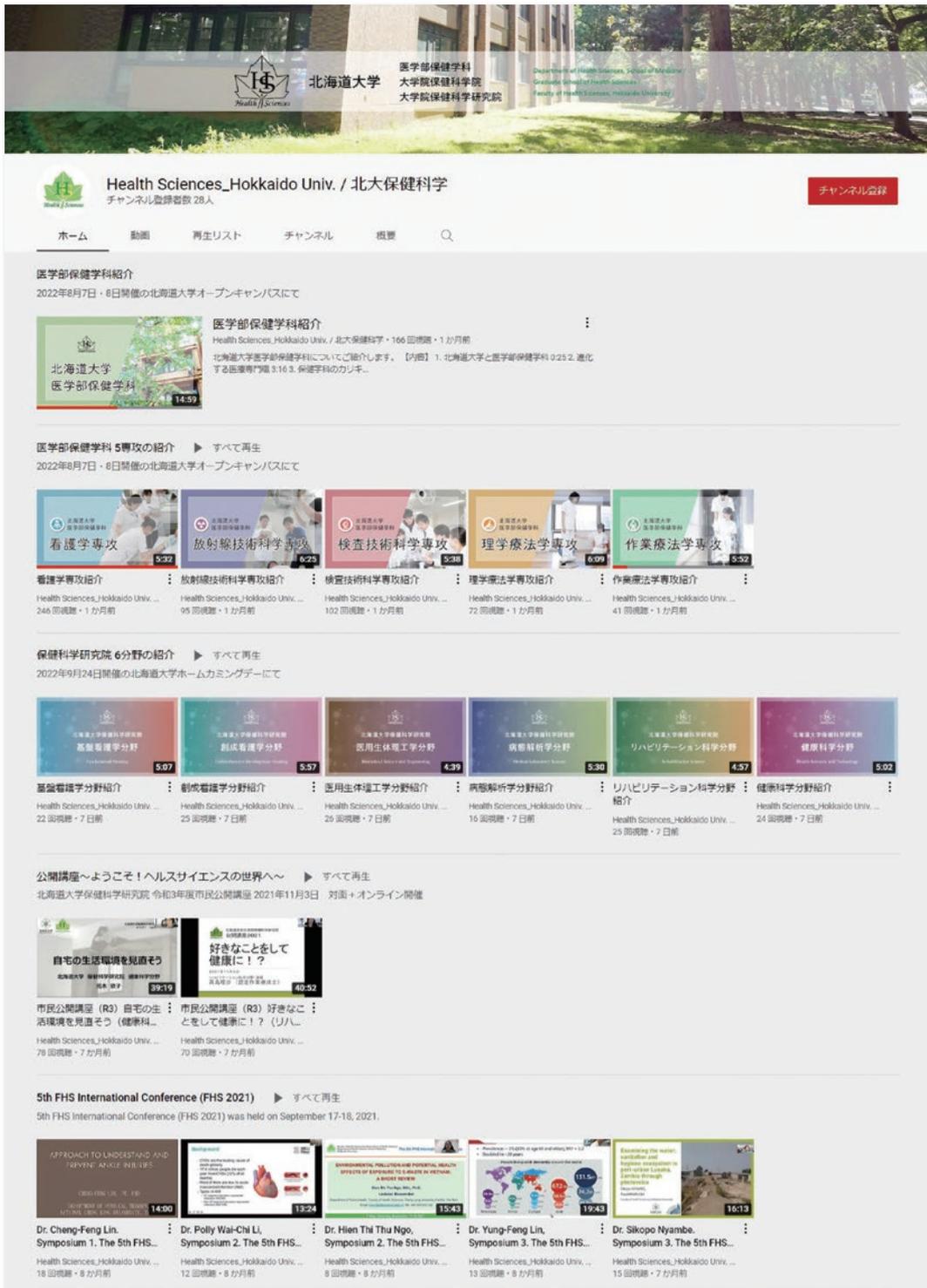
# 保健科学研究院 公式YouTubeチャンネル開設

保健科学研究院の公式 YouTube チャンネルを開設いたしました。

<https://www.youtube.com/channel/UCJLmk4xK3QvPuvuU2CgPNCg>

保健科学研究院ウェブサイトのトップページ(<https://www.hs.hokudai.ac.jp/>)にバナーがあり、そこからもアクセスできます。

2022年11月時点のコンテンツは、「医学部保健学科および各専攻の紹介」、「保健科学研究院6分野の紹介」、「第5回FHS国際シンポジウム(FHS 2021)」,そして「公開講座~ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」です。ぜひご視聴いただき、保健学科・学院での学びや、取り組んでいる研究について知っていただけたらと思います。今後、コンテンツを増やしていきますので、チャンネル登録もお願いいたします。



報告事項

保健科学研究所研究助成制度対象者(令和4年3月～令和4年9月)

所属分野	職名	氏名	備考
基盤看護学分野	教授	矢野理香	1編
基盤看護学分野	助教	大橋和貴	2編
創成看護学分野	准教授	平野美千代	1編
創成看護学分野	講師	青柳道子	1編
創成看護学分野	助教	中村真弥	1編
医用生理工学分野	准教授	杉森博行	1編(内1編20%以内) <sup>※2</sup>
医用生理工学分野	准教授	福永久典	1編
医用生理工学分野	助教	堤香織	2編
病態解析学分野	教授	恵淑萍	5編(内1編10%以内, 3編20%以内), <sup>※1 ※2</sup>
病態解析学分野	教授	山口博之	2編
病態解析学分野	准教授	加賀早苗	1編
病態解析学分野	講師	益田紗季子	1編
病態解析学分野	助教	Dibwe Day Fita Eddy	1編
リハビリテーション科学分野	教授	千見寺貴子	2編(内1編10%以内, 1編20%以内), <sup>※1 ※2</sup>
リハビリテーション科学分野	准教授	寒川美奈	2編
リハビリテーション科学分野	講師	澤村大輔	2編
リハビリテーション科学分野	講師	吉田一生	1編
リハビリテーション科学分野	助教	石田知也	3編
リハビリテーション科学分野	助教	岡田宏基	2編
健康科学分野	教授	横澤宏一	3編
健康科学分野	教授	小笠原克彦	2編
健康科学分野	教授	山内太郎	2編
健康科学分野	教授	池田敦子	1編
健康科学分野	講師	陳震	1編(内1編10%以内) <sup>※1</sup>
健康科学分野	講師	Bomme Gowda Siddabasave Gowda	2編(内1編10%以内) <sup>※1</sup>
健康科学分野	助教	吉村高明	1編

【研究助成制度】

対象：(1) 英文原著論文(査読有, IF有, first author)を執筆した教員  
 (2) 英文原著論文(査読有, IF有)のcorresponding authorとなった教員  
 (ただし, (1)に該当する論文のcorresponding authorとなった教員は除く)

助成の方法：論文1編につき10万円の研究費を対象教員に配分

※1 掲載雑誌のランキングが当該カテゴリーにおいて上位10%以内は20万円を追加配分

※2 掲載雑誌のランキングが当該カテゴリーにおいて上位20%以内は10万円を追加配分

報告事項

令和4年度科学研究費(文部科学省・日本学術振興会)採択一覧

研究種目	新規/継続	氏名	分野・職名	研究課題
基盤研究(A)	継続	池田敦子	健康科学分野 教授	環境科学物質曝露による有害作用:ヒト疫学研究と動物実験による機序解明
	継続	尾崎倫孝	基盤看護学分野 教授	異なる特性をもつ二種類の光を利用した生体内深部組織の修復・再生法の開発
基盤研究(B)	新規	コリー紀代	創成看護学分野 助教	「教育と臨床の乖離」に架橋する在宅人工呼吸器複合現実シミュレータの開発
	継続	石川正純	医用生理工学分野 教授	加速器BNCT治療における総合的線量評価システムの開発
	継続	山口博之	病態解析学分野 教授	癌細胞との類似性から紐解く性器クラミジアの細胞内適応機構解明研究の新展開
	継続	石津明洋	病態解析学分野 教授	MPO-ANCA関連血管炎発症機序の全貌解明と新規治療法の開発を目指して

研究種目	新規/継続	氏名	分野・職名	研究課題
基盤研究(B)	継続	前島 洋	リハビリテーション科学分野教授	薬理的神経制御を用いた新たな脳卒中運動療法の開発に対する生体脳イメージングの応用
	継続	千見寺 貴子	リハビリテーション科学分野教授	老化細胞ニッチを標的とした関節リウマチの制御と関節再生戦略の創成
	継続	横澤 宏一	健康科学分野教授	コミュニケーションの神経基盤—脳磁場ハイパースキャンニングによる脳間相関の抽出
基盤研究(C)	継続	結城 美智子	基盤看護学分野教授	軽症脳卒中患者の病的疲労に着目したフレイル予防・改善のためのケアプログラム開発
	継続	矢野 理香	基盤看護学分野教授	高齢者における安全で、気持ちよさをもたらす清拭ケアプログラムの開発
	継続	鷺見 尚己	基盤看護学分野教授	当事者の経験評価に基づく外来在宅療養生活支援モデルの臨床的有用性
	継続	宮島 直子	基盤看護学分野准教授	Web版対人スキル小集団訓練の持続可能な提供システムの構築
	継続	岩本 幹子	基盤看護学分野准教授	新型コロナウイルス感染症流行下における看護師の専門職倫理性とその葛藤
	継続	佐藤 三穂	基盤看護学分野准教授	高齢糖尿病患者の足の柔軟性に働きかける足浴プログラムの効果検証
	新規	大橋 和貴	基盤看護学分野助教	GISを用いた訪問看護のアクセシビリティの将来推計と可視化
	継続	蝦名 康彦	創成看護学分野教授	ネットワーク分析による産後うつ病の精神病理の解明と個別化した支援の探求
	継続	青柳 道子	創成看護学分野講師	終末期がん患者の望む生き方を支える看護師の対話力獲得モデルと尺度の開発
	新規	リトン 佳織	創成看護学分野助教	家族介護者の精神的負担感を軽減するセルフコンパッションの検証
	新規	加藤 千恵次	医用生体理工学分野教授	ダイナミックPETに検査における人工知能による動脈血放射能曲線の推定
	新規	神島 保	医用生体理工学分野教授	関節リウマチ破壊性変化定量解析システムの妥当性評価
	新規	杉森 博行	医用生体理工学分野准教授	脳虚血性病変におけるAIとRadiomics解析を融合した予後予測方法の開発
	継続	堤 香織	医用生体理工学分野助教	ポリリン酸がミトコンドリア活性を調節して放射線感受性を制御するメカニズムの解明
	新規	櫻井 俊宏	病態解析学分野准教授	ミトコンドリア機能障害に着目した酸化HDLとNASH発症機序の関連解明
	新規	田村 彰吾	病態解析学分野准教授	ライフステージに伴う血小板・巨核球造血微小環境の時空間的変遷の解明
	新規	大久保 寅彦	病態解析学分野講師	ユニークな織毛虫との相互作用から迫るレジオネラの新規エフェクターの探索と機能解明
	新規	遠山 晴一	リハビリテーション科学分野教授	ウェアラブルセンサを用いた歩行解析システムの応用によるロコモの進行危険因子の解明
	継続	境 信哉	リハビリテーション科学分野教授	心拍変動バイオフィードバックが心理・認知機能と脳活動に与える影響
	新規	寒川 美奈	リハビリテーション科学分野准教授	寒冷環境におけるダイナミックストレッチングが筋力学的特性へ与える影響
	新規	宮崎 太輔	リハビリテーション科学分野准教授	小脳における興奮・抑制競合を基盤とした回路形成維持機構の解明
	新規	澤村 大輔	リハビリテーション科学分野講師	慢性期外傷性脳損傷患者における認知機能トレーニングプログラムの確立
	継続	吉田 一生	リハビリテーション科学分野講師	外傷性脳損傷患者のメタ認知を測定する行動課題の作成と臨床的有用性の検討
	新規	小笠原 克彦	健康科学分野教授	レセプトデータによる医療・介護の経済分析と将来予測:GISによる可視化とAI予測
	新規	何 欣蓉	食品機能解析・保健栄養学分野 特任講師	筋腎連関によるビタミンKのミトコンドリアを標的とした新規作用
	継続	芳賀 早苗	生体応答制御医学分野 特任講師	細胞内Ca <sup>2+</sup> と活性酸素が誘導するプログラム細胞死による肝虚血再灌流傷害の新展開
継続	菊地 実	客員研究員	AI技術によるインスリン自己注射管理指導のためのエコーシステムの開発	
継続	齋藤 健	客員研究員	母の栄養環境が誘導する仔のエピジェネティックな代謝変化の機構解明と制御	
挑戦的研究(開拓)	継続	尾崎 倫孝	基盤看護学分野教授	ランタニド・ナノ粒子(LNP)を利用した癌細胞特異的光治療法の開発
	継続	山口 博之	病態解析学分野教授	建造環境の微生物叢の実態把握と応用:温度調節による新たな病原体制御理論の創成
	新規	山内 太郎	健康科学分野教授	子どもたちと一緒に創る地域のサニテーション
挑戦的研究(萌芽)	新規	田高 悦子	創成看護学分野教授	認知症共生社会に向けたICT-CIVIC TECモデルによる地域診断ツールの開発
	継続	前島 洋	リハビリテーション科学分野教授	エピジェネティクスが支える脳卒中再生リハビリテーションの探求
若手研究	継続	中村 真弥	創成看護学分野助教	客観的評価を可能とする、授乳に伴う乳頭損傷評価ツールの開発
	継続	福永 久典	医用生体理工学分野准教授	環境化学物質の曝露による母体血ミトコンドリアDNA量の変化と次世代への影響

研究種目	新規/継続	氏名	分野・職名	研究課題
若手研究	新規	益田 紗季子	病態解析学分野 講師	ペーチェット病患者唾液の好中球細胞外トラップ誘導能の低下原因の解明
	継続	長谷川 直哉	リハビリテーション科学分野 助教	パーキンソン病患者のすくみ足に対する新たな感覚フィードバック練習の考案
	継続	高島 理沙	リハビリテーション科学分野 講師	地域高齢者における作業ストーリーメイキングを活用したアプローチモデルの開発
	継続	石田 知也	リハビリテーション科学分野 助教	足圧中心位置に着目した膝前十字靭帯再建術後の代償的運動制御メカニズムの解明
	新規	高松 泰行	リハビリテーション科学分野 助教	非侵襲的脳刺激を用いた新規脳卒中リハビリテーションの探求
	継続	宮島 真貴	リハビリテーション科学分野 助教	成人期自閉スペクトラム症に対する認知機能改善療法とリハビリ支援プログラムの効果
	継続	Bomme Gowda Siddabasave Gowda	健康科学分野 講師	Exploring the functional role of Hijiki in obesity-associated to sphingolipid metabolism
	新規	吉村 高明	健康科学分野 助教	前立腺癌に対するMR-Only尿導線量低減陽子線治療計画技術の開発
	新規	Divyavani	健康科学分野 助教	Unrevealing the anti-obesity effects of wakame associated to sphingomyelin synthase inhibition
	継続	高倉 祐樹	高次脳機能創発機能分野 特任助教	ウェアラブル端末を用いた認知症の早期発見と類型化に有用となる指標の探索
研究活動スタート支援	新規	大須賀 聡	客員研究員	慢性腰痛症例の体幹回旋方向の外乱に対する姿勢保持能力への運動療法による介入効果
	継続	穴戸 穂	基盤看護学分野 助教	浮腫を有する高齢入院患者における新たな皮膚評価方法を用いた清拭プログラムの開発
	新規	村山 迪史	病態解析学分野 助教	心房細動患者に適用可能な超音波ドブラ法による新しい右房圧推定法の確立
特別研究員奨励費	継続	岡田 宏基	リハビリテーション科学分野 助教	東郷失調症者の自動車運転-実車評価時の脳活動の解明と運転支援システムの開発-
	新規	紺谷 一生	特別研究員	糖尿病・慢性腎臓病患者の清潔ケアにおける皮膚バリア機能変動予測モデルの開発
研究成果公開促進費 研究成果公开发表(B)	新規	山口 博之	病態解析学分野 教授	ようこそ不思議な細菌の世界2022-身の周りの細菌を増やして見て感じてみよう!
国際共同研究強化(B)	継続	山内 太郎	健康科学分野 教授	トイレを必要とする条件とは:狩猟採集民, 農耕民, 都市生活者の排泄と衛生条件の比較
	新規	池田 敦子	健康科学分野 教授	ベトナムの非正規E-waste処理地域における健康調査

## 報告事項

### 受賞状況(令和4年3月~令和4年10月)

所属・職名・氏名	受賞・表彰名称等	受賞論文名・研究題目・受賞理由等
健康科学分野 教授 山内 太郎 2022.3.10	2021年度日本生理人類学会 学会賞	受賞理由: 途上国の農漁村, 都市スラム, 狩猟採集社会に暮らす人々のライフスタイルと健康について, 生理人類学的調査の方法論の確立と長年にわたるフィールド調査研究
健康科学分野 助教 吉村 高明 2022.3.30	公益財団法人北海道科学技術 総合振興センター ノースタ レント補助金 理事長賞	テーマ: 人工知能を用いた前立腺がんに対する動物 追跡陽子線治療計画技術の開発
修士課程1年 保健科学コース・生体情報科学 李 睿语 2022.3.31	第95回日本細菌学会総会 優秀発表賞	演題: 既存薬ライブラリースクリーニングから探る病 原性クラミジアが利用する新規細胞内情報伝達系
博士後期課程1年 保健科学コース・総合健康科学 小松崎 美帆 2022.4.17	第24回日本体力医学会北海道 地方会大会 奨励賞	演題: 短時間のスタティックストレッチングが筋腱力 学的特性に与える影響-性差の検討-
リハビリテーション科学分野 講師 澤村 大輔 2022.6.27	Hokkaido-Melbourne Joint Research Workshops Fund Award	演題: Developing an interdisciplinary component to research-informed international education of the future geriatric allied health worker.
博士後期課程3年 保健科学コース・総合健康科学 崔 佳宏 2022.7.2	作業療法神経科学研究会 第7回学術集会基礎研究部門 奨励賞	演題: Interfering Effect of Audiovisual Cross-modal Conflict During Working Memory Tasks: A Near-infrared Spectroscopy Study

所属・職名・氏名	受賞・表彰名称等	受賞論文名・研究題目・受賞理由等
修士課程修了生 保健科学コース・生体情報科学 中村 伊織 2022.7.30	2022年度日本検査血液学会 学術賞	論文:Deep Learningを用いた正常骨髄細胞の判別
健康科学分野 講師 Bomme Gowda Siddabasave Gowda 2022.9.12	Bioactive Lipids Conference Travel Award	演題:A facile analytical method for determination of Short Chain Fatty Acid Esters of Hydroxy Fatty Acids
創成看護学分野 助教 大西 竜太 2022.9.13	日本地域看護学会第25回学術 集会 最優秀演題賞	演題:デジタルネイティブ世代の育児におけるスマー トデバイス使用の関連要因:6~11ヶ月児の母親に着 目して
修士課程2年 保健科学コース・生体情報科学 佐崎 生 2022.9.17	第32回日本臨床化学会北海道 支部例会 若手優秀演題賞	演題:LDLの肝ミトコンドリア呼吸機能への影響
医用生体理工学分野 准教授 福永 久典 2022.9.23	2022年度公益財団法人中山 人間科学振興財団 中山賞 奨励賞	研究課題:マイクロビームによる精密な空間制御と精 子形成能の温存-マイクロビーム放射線治療の開発
修士課程2年 保健科学コース・生体情報科学 吉貝 あみ 2022.10.1	第62回日本臨床化学会 年次学術集会 JSCC Student Award	演題:サケ白子抽出物のカルジオリピン代謝に関する 機能性
健康科学分野 講師 Bomme Gowda Siddabasave Gowda 2022.10.15	中性脂肪学会第5回学術集会 TGBM award (優秀賞)	演題:Analysis of lipid biomarkers for heart failure by LC/MS
医用生体理工学分野 准教授 福永 久典 2022.10.28	第8回北大・部局横断シンポジ ウム 研究助成採択 銀賞	テーマ:ミトコンドリアDNAコピー数の生理的意義の 解明と新規治療アプローチの開拓:分子疫学的解析 とDDS技術開発の融合
健康科学分野 講師 Bomme Gowda Siddabasave Gowda 2022.10.28	第8回北大・部局横断シンポジ ウム 研究助成採択 銅賞	テーマ:Investigating effect of Kasokero virus infection on lipid metabolism
健康科学分野 助教 吉村 高明 2022.10.28	第8回北大・部局横断シンポジ ウム 研究助成採択 銅賞	テーマ:人獣連携によりMR画像-CT画像変換を高精度 化する技術の開発~前立腺癌に対するMR画像誘導即 時適応尿道線量低減陽子線治療の実現に向けて~
修士課程2年 保健科学コース・健康科学 南 雄介 2022.10.28	第8回 北大・部局横断シンポジ ウム ベストポスター賞	演題:Exploring food bioactives for controlling obesity associated with lipid metabolism

## 報告事項

### 人事異動(令和4年4月~令和4年10月)

#### ●令和4年4月1日

- (採用) 福永 久典 医用生体理工学分野准教授
- 田村 彰吾 病態解析学分野准教授
- 村山 迪史 病態解析学分野助教
- (昇任) 鷺見 尚己 基盤看護学分野教授
- 佐藤 三穂 基盤看護学分野准教授
- 櫻井 俊宏 病態解析学分野准教授
- 長谷川直哉 リハビリテーション科学分野准教授

#### ●令和4年5月31日

- (退職) 呉 珮 健康科学分野講師

#### ●令和4年6月1日

- (採用) 松澤 明美 創成看護学分野准教授

#### ●令和4年8月12日

- (退職) 陳 震 健康科学分野講師

#### ●令和4年8月31日

- (退職) 大西 竜太 創成看護学分野助教

#### ●令和4年9月30日

- (退職) 鏡山 浩美 創成看護学分野助教

#### ●令和4年10月1日

- (採用) 越野 裕太 リハビリテーション科学分野助教

## 編集後記

### ～伊達先生とプラテュス～

広報室長 山内 太郎

2年半ぶりの海外出張のさなかに、突然お別れはやってきました。

振り返れば14年前。2008年(平成20年)4月に保健科学研究院, 大学院保健科学院が新設され, 同年8月に広報誌プラテュスは創刊されました。初代広報室長の伊達先生と4名の広報室員が獅子奮迅して新しい保健科学研究院の広報誌プラテュスの創刊に尽力しました。縁あって赴任2年目の若輩だった自分も広報室員の末席に名を連ねました。広報誌の名前(プラテュス)を決めたり, 研究院のシンボルマークを決めたり, ウェブサイトを立ち上げたり..., 希望に燃えた楽しい日々を昨日のことに覚えていてます。

歴代4代の研究院長において2度にわたって研究院長を務められた伊達先生が, 現在の保健科学研究院の多くを築き上げたのは言うまでもありませんが, とりわけ広報関連活動においては, 研究院の設立から現在に至るまで伊達先生が敷いてくださったレールの上を歩んでいることに気づかされます。本年4月に広報室長を拝命してから, 伊達先生と折に触れて広報活動についてお話ししてまいりました。「今の広報誌, ウェブサイト等々は昔, 自分が作ったものからあまり変わっていない。時代の変化に合わせて良いものに変えていってください。」と笑顔で語られていた姿が目につきます。

保健科学研究院の父のような存在であり, 個人的には兄のような存在であった伊達先生。大きな喪失感を抱えつつも, レガシーを継承し, より良い形で未来に引き継いでいかなければならないと思いを新たにしています。

伊達先生, ありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。

### 広報誌の名称 「プラテュス」の由来

保健科学研究院の玄関前には, 大きな二本のプラタナスの樹があります。古代ギリシャの医者ヒポクラテスは, プラタナスの木陰で弟子たちに医学を説いたそうです。大きな広い葉をもつプラタナスは, ギリシャ語で「広い」を意味する platys(プラテュス, ギリシャ語では「πλατύς」と記す)に, その名が由来するとされています。本研究院が幅広い分野の専門家の集まりであることから, このプラタナスの語源になぞらえて「プラテュス」と命名しました。

【発行】 北海道大学大学院保健科学研究院広報室

〒060-0812 札幌市北区北12条西5丁目

【連絡先】 医学系事務部保健科学研究院事務課庶務担当

電話 011-706-3315 / E-mail shomu@hs.hokudai.ac.jp

URL <https://www.hs.hokudai.ac.jp>